

## 事業所における自己評価結果(公表)

討議年月日: 令和5年3月2日

公表: 令和5年3月30日

事業所名 春日井こども発達支援センターてくてく

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	11	0		
	2	6	5	・部屋内をリーダー含め職員2人にしてほしい。 ・自分が突然休んだ時、心配。 ・スタッフが足りないと感じる日もある。	・職員間の連携について定期的に再確認し、不足や偏りのないよう事前対処していきます。
	3	10	1	・トイレの設備が乳幼児用になっていないので、補助便座・台等を工夫して整えている。おむつ交換台や専用場所が無いので床に敷物などで場を作っている。	
	4	11	0	・活動に合わせた環境づくりは手作りのパーテーション等で工夫し、子ども達に落ち着ける場を工夫している。	
業務改善	5	11	0		
	6	11	0		
	7	11	0		
	8	10	1		
	9	11	0		
適切な支援の提供	10	11	0		
	11	10	1		
	12	11	0		
	13	11	0	・活動前に確認するように心掛けているが、毎回は出来ていない。	
	14	11	0		
	15	11	0		
	16	11	0		
	17	11	0		
	18	11	0		
	19	11	0		
20	11	0			

関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	11	0	
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	10	1	・保健師の方たちとの連携をした支援が必要と感じる。
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	7	4	
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	7	4	
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	11	0	
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	10	1	・特別支援学校との情報共有は電話で行うことができるが、相互理解に至っていない。 ・発達スクリーニングの結果を小学校との情報共通ツールとして保護者に説明しています。
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	11	0	
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	3	8	
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	10	1	
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	11	0	
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	6	5	
保護者への説明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	11	0	
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	10	1	
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	11	0	
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	10	1	
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	11	0	
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	11	0	
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	11	0	
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	11	0	
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	11	0	

非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	11	0		
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	10	1		
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	10	1		
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	6	5	・親からの情報提供に頼っている。	
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	8	3		
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	9	2	・担当者中心に研修していく予定。	
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	8	3	・発達段階に沿って集団活動が出来ていくよう支援計画に配慮点としていることを説明。また危険な行動を伴う場合に抱きかかえるなどすることを伝えてある。	

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。